

社会科「 価値判断・意思決定しながら、未来を思考する力を育む社会科授業 」

安野 雄一，大屋 智

1. 社会科における未来そうぞう

(1) めざす子ども像

本校社会科の目指すべき子ども像は「実社会と繋がり，問題意識を持ち続ける子ども」である。問題意識を持ち続ける子どもの姿は、「自らの問いを繰り返し持ち続け，自らの思いや願いをもって学び続ける姿」である。今年度は，目指す子ども像を念頭に置き，社会的な見方・考え方をもとに価値判断・意思決定しながら，過去や現在，そして未来を思考する単元づくりとその評価について研究を進めていく。社会科学学習は，過去や現在の対象について俯瞰して多面的に見つめ，価値判断・意思決定しながら，未来を思考することでこそ，その意味が増大するものとする。

(2) 社会科がになう3つの実践力

対象について価値判断・意思決定するためには，社会的な見方・考え方を働かせる必要がある。学習指導要領には、「社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を考えたり，社会にみられる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の視点や方法」と整理されている。このことを踏まえて，社会的な見方・考え方を働かせ，価値判断・意思決定し続け，未来を思考する社会科学学習において，以下のような3つの実践力を発揮する子どもを育てていきたい。

<3つの実践力を発揮する子どもの姿>

主体的実践力	見通しをもって，対象について，進んで調べたり，考えたり，価値判断・意思決定したりしながら，学びを広げたり深めたりし続けることができる子ども
協働的実践力	それぞれが価値判断・意思決定したことをもとに，対話を通して，友だちと協働し，社会的事象についてより多角的・多面的で高次の思考をすることができる子ども
創造的実践力	過去・現在の対象について多角的・多面的に調べて考え，価値判断・意思決定し，よりよい未来や社会を想像したことをもとに，よりよい未来や社会の在り方を創造（表現・実践）することができる子ども

上記の3つの実践力が育まれていく過程で想定されるのが，子どもたちが教科の垣根をこえて，より広い視野で学びを進めようとする姿である。社会科の独自性を活かしつつ，IB（国際バカロレア）教育の視点も踏まえながら，社会科学学習を考えていくことも重要である。

2. 社会科における未来をそうぞうする子どもを育むための手立て

(1) 価値判断・意思決定力しながら，未来を思考する単元づくり

価値判断・意思決定をするベースとなる社会的な見方・考え方が働くには，扱う社会的事象について，様々な視点・立場から，多面的に見つめていく場を設定する必要がある。従って，社会科授業では，問いをもち，①資料との対話を通して調べて考える場，②実物との対話を通して調べて考える場，③他者との対話を通して調べて考える場を，各単元においてバランスよく配置するものとする。そこに，価値判断・意思決定の場を継続して取り入れることで，よりアクティブな学びの中で多面的思考から社会認識を深め，価値判断・意思決定し，④より高次の思考する場へと学びを進めるようにする。教師はその時々の子どもの思考の様子やその変容を，「座席表」を活用して見取り，学習展開の構想に活かすものとする。また，社会（地域・国家・世界レベル，過去・現在・未来の時間軸）の様子を捉えると同時に，その社会と自分の関わり方についても，未来そうぞう科や他教科との関連の中で考えていくことができるようにする。

(2) 3つの実践力を発揮できる授業づくり

主体的実践力・協働的実践力・創造的実践力を育てていくために，社会科授業における学びについて，

以下のように整理し、学びを紡いでいけるようにするものとする。

主体的実践力	<子どもの思いや願いを意識した単元展開（授業での発言や座席表からの見取り）> ●子どもの問いから学習内容を組み立てる ●学び方も子どもたちの思いや願いを念頭に置いて学習内容を組み立てる ●価値判断・意思決定を継続して行うことを意識して単元展開を組み立てる
協働的実践力	<対話を意識した単元展開> ●学級や学年の子ども同士で対話する ●資料と対話する ●社会的事象に直接かかわる人たちと対話する <対話の場面から価値判断・意思決定の場面へ> ●社会的事象を取り巻く状況を俯瞰して、様々な視点・立場から多面的・多角的に見つめ、価値判断・意思決定する場を設定する
創造的実践力	<価値判断・意思決定し続け、過去—現在—未来を繋ぐ単元展開> ●過去や現在の社会的事象について多面的に考え、価値判断・意思決定し、よりよい未来や社会の在り方を思考する場を設定する ●学校内にとどまらず、アウトプットする場を設定する

(3) 未来そうぞう科・家庭科・理科との教科横断的な学習

社会科授業で育まれた3つの実践力は、他教科での学びと関連付けて、より広く、より深い学びへと展開させることも可能であると考えられる。教科を横断することで、世界のあらゆる事物が関連し合っていることにも気づくことができるものと考えられる。以下にその事例について整理する。

	学年	社会科	未来そうぞう科	家庭科	理科
事例1	6年	打製石器をつくらう(旧石器・縄文)	農業公園 Corporation(5年)	いためてつくらう朝食のおかず	植物のつくりと働き
事例2	5年	米づくりのさかんな地域	農業公園 Corporation	食べて元気に	植物の発芽と成長 花から実へ
事例3	4年	安全な暮らしを守る(消防・警察) 地域の発展に尽くした人々 (大和川のつけかえ)	自分たちの地域の防災		流れる水のはたらき(5年) 水のすがた 水のゆくえ
事例4	3年	平野のまちを探検しよう 私たちの暮らしとまちで働く人々	平野 EXPO		身近な自然の観察

3. 社会科における評価について

社会科における評価と未来そうぞうの3つの実践力を意識した学習展開・単元構成を計画し、以下に整理した子どもの見取りから、更に学習内容が子どもたちに合ったものとなるように学習内容を修正していくものとする。

座席表	<子どもたちの各授業でのふりかえりの見取り> ポートフォリオ評価 ●子どもが得た知識面 ●思考(価値判断・意思決定)の変容 ●主体的実践力の見取り
作成物	<レポートなどの成果物からの見取り> パフォーマンス評価 ●知識・技能面や思考面の見取り ●創造的実践力・協働的実践力の見取り

《参考文献》

野村総合研究所 https://www.nri.com/jp/news/2015/151202_1.aspx (2015年)

文部科学省『小学校学習指導要領』(2017年3月告示)

全国民主主義教育研究会『主権者教育のすすめ』(2014年)

広田照幸『高校生を主権者に育てる～シティズンシップ教育を核とした主権者教育～』(2015年)

澤井洋介『社会科授業づくりトレーニングBOOK～学習問題づくり・教材化・単元の指導計画づくり』(2015年)

筑波大学附属小学校社会科教育研究部『筑波発 社会を考えて創る子どもを育てる社会科授業』